

テーマ：この新たな一年も“初めの愛”に立って、主の業に熱心に励んでいくこと

○歴史的背景

●手紙の宛先：エペソにある教会

「誰でもエペソに住む者は、至る所で目にとまる不道徳に泣かないわけにはいかない。」(古代ギリシヤ哲学者：ヘラクレイト)

※使徒 20:36-38

「こう言い終わって、パウロはひざまずき、みなの方とともに祈った。みなは声をあげて泣き、パウロの首を抱いて幾度も口づけし、彼が、「もう二度と私の顔を見ることがないでしょう」と言ったことばによって、特に心を痛めた。それから、彼らはパウロを船まで見送った。」

●差出人：イエス・キリスト

※黙示録 1:20

「わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。」

▶七つの星：七つの教会の御使い

▶七つの燭台：七つの教会

○エペソの教会に対する三つの評価

1. 神様の前に称賛される点(2-3, 6)

※使徒 20:29-30

「私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。」

※1 テモテ 1:3-4

「…ある人たちが違った教えを説いたり、果てしのない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現をもたらすものではありません。」

※ニコライ派について(cf. 黙示録 2:14-15)

2. 神様の前に非難される点(4)

●初めの愛から離れることの問題

a) 第一、第二の戒めがそれを求めているから

※マタイ 22:37-39

「そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」

※1 ヨハネ 4:19

「私たちは愛してします。神がまず私たちが愛して下さったからです。」

※ヨハネ 13:34-35

「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

b) 愛がなければ、どんな行為も価値のないものになるから

※1 コリント 13:1-3,13

「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。…こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

3. 神様からの警告(5, 7)

●三つの命令

1) どこから落ちたかを思い出しなさい

2) 悔い改めなさい

3) 初めの行いをしなさい

○まとめ